

NO WAR！即時停戦へ！

1. NO WAR・即時停戦という平和（非軍事・非暴力）への希求がいかに国際政治・軍事の前に無力であるかが、あらわにされてきた3か月でした。水面下での交渉が行われているかどうか知る由もありませんが、少なくとも目に見えるところで停戦の兆候は見られず、むしろ戦争の継続・拡大の兆しすら見えます。
2. 平和への希求は本当に無力なのか？私には分からない。しかし、たとえ無力ではあっても私（たち）ができることは平和への希求しかない。戦争に勝利するか否かではなく、人々の命がどれだけ守られるか否かということである。
たとえ平和ボケと言われようと「NO WAR、即時停戦」

NO WAR！即時停戦へ！

1. 新聞・TVの傾向が「NO WAR」のスタンスから、「ウクライナの勝利を支援しよう」というスタンスへと変化している。
2. 当初は圧倒的優勢に立つと思われていたロシア軍の侵略に対し、直ちに戦闘をやめよ、ロシア軍は撤退せよ、NO WAR！の声。
3. 予想を超えたウクライナ軍の軍事力（米を中心としたNATOからの軍事支援=高性能兵器供与）により、ウクライナ軍の軍事的勝利を期待する声。
「NO WAR」から「ウクライナの勝利を」への変化
4. プーチン大統領の命令により、ロシア軍がウクライナに軍事侵略したことは国際法や国連憲章に明白に違反する。
したがってウクライナが個別的自衛権に基づき、ロシア軍の侵略に対し、軍事力で対抗することは国際法的には容認される。しかし、武器を持って戦えば戦うほど双方の犠牲が拡大するという矛盾に遭遇する。

3. 昔の兵器は、原始的には素手、肉体、筋力に加えて弓、槍、こん棒、石。基本的に相手を痛めつける傷つける道具でした。これを補強するのに鉄砲、爆弾、より一層物騒になり、それらを所有することが力だと勘違いするようになりました。大砲、ミサイルができると我が身を傷つけずに攻撃できるようになりました。行きつくところ原子爆弾を作りました。冗談ではありません。地球を離れない限り自らも死にます。つまり、文字通り最後の兵卒になるのです。素手の喧嘩相手には石で相手を傷つけ痛みを与える行為は、あまりにも無知だ。無知蒙昧だ。
4. 神代の昔からの憎しみ誤解という事象と同様、神代の昔から生命がこれまで続いてきたのは、生命を再生し育ててきた生命力であるの言うまでもありません。いわゆる愛の力です。原始的な兵器の力を発揮するまでは育てる行為が必要です。見た目に弱いとされる子の存在を無きものにする行為には激しい憎しみが生じます。憎しみには争いが発生し、そして更なる憎しみと誤解を増幅していく過程を反復するのです。

2022/5/28

3

非現実的と言われるかもしれないが・・・

- *ロシアの下級兵士、ロシアの人々、ウクライナの人々、また北朝鮮や中国の人々とも私たちは友人である。
- *ロシアの人々へのヘイトや排外、嫌がらせにはNOの声をあげよう。
- *ウクライナへの人道支援、医療支援・食料支援そして難民支援に傾注しよう。
- *米を中心としたNATO指導部とゼレンスキー政権、そしてプーチン政権は全力を傾注し、即時停戦の道を拓け！
- *プーチンは直ちにウクライナから兵を引け！
- *ゼレンスキー政権は直ちに武器を置け！
- *米を中心としたNATOはウクライナへの軍事支援をやめろ！
- *国連関与の体制構築を！
- *軍事的チキンレースののちに停戦するのではない。停戦してのち外交的チキンレースを国連の監視の下に行へ！すべての問題は棚上げにし、棚から一つ一つ下ろすときには政治指導者の世代交代の時間幅を持って、粘り強く継続すること。